

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日	6月 ~26日	7月 ~3日	7月 ~10日	7月 ~17日	7月 ~24日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	14	12	38	35	36	30	13 (21)	7
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	24	24	27	15	4	9	5	7
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0 (4)	2
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	2	0	1	0	3	2	1	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	4	2	8	8	5	7	4	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	3	2	2	1	3	6	4	0
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0 (1)	1
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。  
\* 前週と今週のその他の1件は、アエロモナスでした。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第29週(7月18日~7月24日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3					3		
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症	5					3		2
四類	2	重症熱性血小板減少症候群	2					1	1	
五類	18	アメーバ赤痢	1					1		
		カルバベネム耐性腸内細菌感染症	2	1		1				
		急性脳炎	1					1		
		梅毒	14					11	1	2
新型インフルエンザ 等感染症	13,714	新型コロナウイルス感染症	13,714	1,416	927	932	171	6,856	948	2,464

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第29週に6,857件の報告があり、急増しています。増加の主な要因は、オミクロン株のBA.5への置き換わりによるものと考えられています。感染者の増加が続けば入院も増え、医療のひっ迫を招きます。一人一人が、基本的な感染防止対策を徹底することが重要です。

2 RSウイルス感染症

定点当たり6.25人の報告があり、増加が続いています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、注意が必要です。

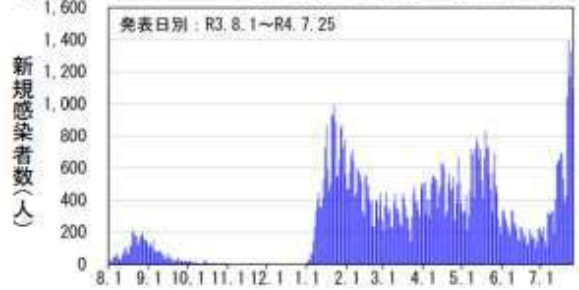
3 手足口病

定点当たり3.29人の報告があり、多い状況が続いています。広島県は7月21日に県内全域に「手足口病警報」を発令しました。

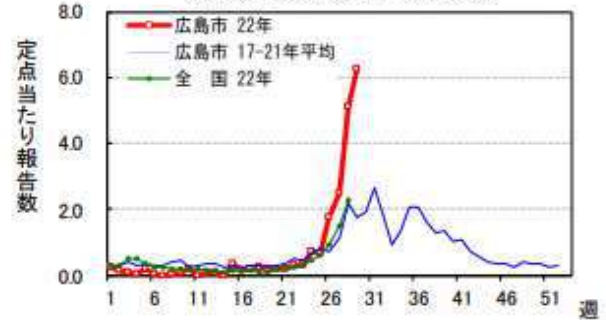
4 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

今年初めての報告が1件ありました。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど、肌を露出しないように注意しましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.13	
小児科	咽頭結膜熱	2	0.08	0.49		眼科	RSウイルス感染症	150	6.25	1.77	↗
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.33	1.59	↘		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	83	3.46	3.39	↔	基幹	流行性角結膜炎	3	0.38	0.73	
	水痘	1	0.04	0.23			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	79	3.29	4.18	↔		無菌性髄膜炎	2	0.29	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.05			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	
	突発性発しん	6	0.25	0.22			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	19	0.79	0.80	↘		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	64	60歳代・1人、70歳代・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	11	10歳代・O157、60歳代・O26、70歳代・O血清群不明
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	10歳代
5	アメーバ赤痢	1	3	50歳代
5	急性脳炎	1	5	10歳未満
5	梅毒	11	174	10歳代・1人、20歳代・4人、30歳代・2人、40歳代・3人、50歳代・1人